

令和7年度第1回日進市総合教育会議 議事録

日 時 令和7年11月12日(水) 午後3時25分から午後4時40分まで

場 所 日進市役所本庁舎4階第3会議室

出 席 者 近藤裕貴(市長)、岩田憲二(教育長)、武田立史(教育長職務代理者)、小林秀一(教育委員会委員)、伊藤志門(同)、市来ちさ(同)、吉田優香理(同)

欠 席 者 なし

事 務 局 鬼頭聰(総合政策部長)、柏木晶(企画政策課長)、白木誠(同課主幹)、窪田健一(同課主査)、長草梨香(同課主事)

説明の為に出席した者 伊東あゆみ(副教育長)、長原範幸(生涯学習部長)、棚瀬浩三(学校教育部長)、蛭牟田弘樹(学校教育部主任指導主事)、高柳秀史(学習政策課長)、大鐘徹也(学び支援課)、齋藤誠(同課図書館長)、桃原勇二(学校教育課長)、岡田剛(同課学校給食センター所長)、加藤良(同課指導主事)

傍聴の可否 可

傍聴の有無 有(1名) ※Zoomによるオンライン傍聴

次 第 1 開会
2 あいさつ
3 協議事項 登校支援事業について
4 報告事項
(1) 教育振興基本計画の中間見直しについて
(2) いじめ防止基本方針及び子どもの権利学習について

配 付 資 料 資料1 日進市登校支援事業と課題
資料2 いじめ基本方針改定進捗報告
資料3 日進市いじめ防止基本方針
資料4 第2次日進市教育振興基本計画の中間見直しについて
資料5 第2次日進市教育振興基本計画中間見直し(案) 主な修正点について
資料6 第2次日進市教育振興基本計画中間見直し(案)

発言者	内 容
	1 開会
	2 あいさつ
	3 協議事項
	議題「登校支援事業について」説明をお願いします。
学校教育部	(資料1に基づき説明)
市長	説明のあった登校支援事業に関し、市の次なるステップをどう考えるかについて、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思います。 現在、中学校にはハートフレンドが整備されましたが、小学校にも同様の環境が必要なのか。市内中学校4校に対し、小学校は9校あるため、必要な予算や人員も大幅に増えることになります。 必要なものであれば多くのお金や人が必要であっても、やるべきだとも思っています。教育委員の皆さんどう捉えているのか、ぜひ意見をいただきたい

	です。
市長	<p>また、コドマモのアプリについては、先日の愛知県市長会でも話題になりました。県への提案書において日進市の取組事例が紹介され、「補助金の制度を県で設けてほしい」と他市の市長からも声が上がったほどです。</p> <p>日進の子どもだけがよくなればいいのではなく、全体としてよい方向に広がっていくことが大切だと思います。</p>
委員	<p>先日、学級力向上PJ×スマイルクラスの様子を学校訪問の際に低学年の教室に見に行きました。</p> <p>低学年にとっては難しい言葉や内容に感じましたが、毎年続けることで、児童自身が学級経営に携わっている感覚を味わうことができ、それが学校に行こうという気持ちに繋がるきっかけになることもあると思います。</p> <p>自分が学級経営に参画することで、学級が変わっていく様子を実感できることが大切です。地味な活動にも見えますが、今後もこの取組を続けていけるとよいと思います。</p>
市長	人間誰しも、自分が必要とされている、役割があると感じることで頑張る力が湧いてくるものです。子どもの頃から、そうした経験を積ませてあげることが大事だと思います。
教育長	<p>地味なことでも地道に積み上げていくことで、最終的には子どもの幸せに繋がると思っていますし、それを先生にも理解してほしいです。新聞などで取り上げられると、他市から声が掛かりますが、話を聞いて共感していただけた自治体は日進市に追随してくると思います。予算が苦しい部分もありますが、子どもを第一優先に考えて、スタートが切れるといよいと思います。</p> <p>また、子どもの権利×ICT実現のためのマンダラチャートは非常によくできていると思います。私たちがを目指すところは、環境を整えること、心を育てること、子どもだけでなく保護者への支援など、多方面にわたります。そしてこうした取組の一つひとつが、先生を育てる教材になっています。先生が力をつければ、学校はよくなりません。子どもの幸せのために多様な手立てを講じながら、同時に先生たちを育てていく。そういう視点で取り組んでいます。</p>
委員	<p>中学生への支援が充実していますが、小学生への支援も拡大していく中で、発達段階に応じた支援、取組方法を検討していくことが必要だと思います。</p> <p>また、学級力向上PJ×スマイルクラスの取組は、児童が自己有用感を持つことができる機会になると感じています。一人ひとりに役割があることは大切なことです、逆にそれがプレッシャーにならないように先生が工夫する必要があります。係活動を例に挙げると、子ども同士で話し合って自分たちが取り組めそうな役割を学級内でつくっていくとよいと思います。</p>
市長	親や先生が、子どもが動くよりも先にやってしまう、決めてしまう場面も多くありますが、子ども自身に考えさせ、失敗しながら学ばせることも大切です。
委員	中学生は担任の先生と生徒が関わる時間が少ないのに対し、小学校は担任が自分の学級の子どもを見る時間が長いです。事務負担も改善傾向にあり、子どもと向き合う時間が増えているはずですが、その中でも特に給食や放課中な

	<p>どの授業時間外で、いかにこれまで以上に担任が子どもを見る時間をつくつていけるかということが重要だと思います。</p> <p>また、デジタル化が進み、授業では先生も子どももタブレットとにらめっこになってしまいがちなので、機械だけに集中するのではなく、子どもにもしっかりと目を配って一人ひとりに届ける授業づくりが必要であると改めて感じています。</p>
委 員	<p>今の委員の発言に関連して、先日学校訪問した際に、休み時間に職員室へ帰つてまた教室に行くことが大変だという話を聞きました。担任を学級の経営者と位置付けるのであれば、教室を社長室のようにして、職員室に戻らなくてもよい仕組みにしてはどうでしょうか。今はタブレットも含めて一旦全部職員室に戻り、すぐに次の授業に行かなければなりません。先生の運動にはよいですが、それでは子どもを見る暇がないので、個人情報の問題もあることは承知していますが、もう少し大変な思いをしている担任の先生へのアプローチも必要だと思います。</p>
教 育 長	<p>労働基準法の観点からしても、先生がきちんと休憩を取れないことは課題であります。</p> <p>昨日、自治体のリバースピッチである会社からタブレットのカメラを使って、子ども一人ひとりの心の状況が分かるという技術の発表がありました。活用としては、例えば今私が話していますが、聞いている皆さんのが心の状況が分かるというものです。精度は把握していませんが、一つの研究材料としてはよいと思っており、授業のどの場面で使うとか、朝と帰りの様子と比べるとか、先生のメンタルヘルスに活用するなど、ICTを上手に使っていけば、先生の育成にも繋がると思います。</p>
委 員	<p>不登校を課題とするのではなく、登校支援に目を向けた取組は素晴らしいと思います。</p> <p>日進市において令和5年度比で令和6年度は不登校といじめ認知件数が減少していますが、令和2年から3年に急激に増えています。要因は何かあるのですか。</p>
学校 教育 部	<p>不登校の数の増加について、令和2年度から令和3年度はコロナの影響を受けたと一般的に言われています。コロナが落ち着いてきて、全国の伸びとしては不登校の増加率は鈍化していますが、日進市のように下がるということは非常に珍しいことです。</p>
委 員	<p>そのほかにも、保護者のいじめに対する認識が高まったため、データ的に増えたということもあるのでしょうか。</p>
学校 教育 部	<p>全国的に認知件数は増えているとは思います。細かいところも拾っていきましょうという体制づくりが文部科学省からも降りてきていて、学校現場も些細なことも見逃さない体制が整っています。</p> <p>その中でも日進市は減少傾向にあるので、登校支援の取組と先生たちの指導の仕方も合わせて効果が出ていると分析しております。</p>
委 員	私はおいしい給食プロジェクトに助けられています。自身の子どもも学校に

	行きたくない気分になることがあるようですが、イラスト付きの給食カレンダーをいつもチェックして、「明日の献立が楽しみだから絶対に学校に行く」という会話になることもあります。小さな楽しみがあることで学校に行ける機会が増えると、登校支援がもっと進んでいくのではないかと思います。
市長	イラストで今月の給食献立を出しているのは他自治体にはないと聞いていますが、いかがですか。
学校教育部	<p>全国でも日進市だけの取組だと認識しています。</p> <p>給食で子どもが学校に行きたくなるような方法を考える中で、給食の味については子どもたちの間でも美味しいという話が出ますが、それが子どもにより伝わることが大切だと考えました。そうして大学と連携してイラスト付きの献立表を作りましたし、ほかにも、例えば月曜日はちょっと学校に行きたくない子どもが多いと考え、月曜日に人気メニュー持ってきてたり、ニッキー給食として特別メニューを考案したり、全国の人気メニュー出したりするなど、それぞれの子どもの視点で何か期待して学校に行ってもらえるといいなと思います。</p> <p>もう一つ、最近特別支援学級の親御さんからお手紙をいただきました。そのお子さんは視覚からの情報から行動のきっかけを作ることが多く、イラスト付きの献立表を出し始めてから、イラスト切り抜いて、献立を書く作業を熱中してやっており、結果的に1日の情緒が落ち着いたそうです。当初の狙いとはちょっと違う部分ではありましたか、よい影響があったということで、これからもこの取組を頑張って続けていきたいと思います。</p>
委員	<p>私は教育委員になって学校訪問の際に給食を食べて、初めて子どもと給食の会話ができたので、保護者も給食を食べる機会をもっと増やせるとよいと思います。PTAの会議を昼にやるのであれば給食が出たらよいですね。</p> <p>応募してわざわざ行こうという人は少ないので、取組として保護者も例えば6年間のうちに1回は給食を食べる義務にしてもいいぐらいだと思っています。</p>
教育長	<p>市長が最初に小学校の校内ハートフレンドの話をしていただいたので、一言お話しします。</p> <p>事実、小学1、2年生で教室に座れずに立ち歩く子が増えています。1人飛び出すと担任は追いかけなければならず、残りの勉強したい子の授業が止まってしまうので、校務主任、教務主任、教頭まで担任の代わりに授業をしている学校がほとんどです。中には校長先生が授業をしており、それを防ぐために空いている先生が、空いている教室で面倒を見ています。</p> <p>そのため、正式な形として小学校内に支援センターができれば、先生が病む確率も減るし、子どもたちの座れない、飛び出したい、教室にいたくないという心の表現に対して手を差し伸べてあげられる体制が整うと思っています。</p>
	4 報告事項
	(1) 報告事項 いじめ防止基本方針及び子どもの権利学習について (2) 報告事項 教育振興基本計画の中間見直しについて

市長	報告事項（1）について説明をお願いします。
学校教育部	(資料2、3に基づき説明)
市長	ただいまの説明について、ご質問等はございますか。（なし）
市長	続いて、報告事項（2）の説明をお願いします。
生涯学習部	(資料4、5、6に基づき説明)
市長	中間見直しのため大きな変更はないですが、この5年間、日進市では色々なことに取り組んで新しいことが増えています。軸となる部分を大きく変更するということはないですが、何かご質問等はありますか。
委員	校内ハートフレンドの対象は中学校の生徒が中心ですが、その学区の小学生も利用可能ですか。
教育長	可能です。
委員	見直し（案）の10ページの赤字部分、「学校生活はじめず、教室に居づらい生徒の居場所をつくり、登校を支援する必要があります。」と、11ページ上部の赤字部分も同じような文言があり、「生徒」とだけが書かれているので、小学生も利用可ということであったら、「児童・生徒」にしていただきたいなと思います。
市長	一度検討してください。 中学校のハートフレンドに小学生も行ける仕組みにはなっていますが、なかなか行きづらいという点で、先ほどの議論になっているかと思います。あるに越したことはないですが、我々のこれから課題だと認識しています。
市長	今日の議題は以上になります。議事進行を事務局にお返しします。
事務局	これで本日の会議を閉会します。
	(閉会)